



心肺蘇生法講習会

日本は周囲を海に囲まれています。これからの季節は、海や川、山など、アウトドアでのレジャーを楽しむ機会が増えてくることでしょう。学校でも水泳の学習が始まります。令和3年(2021年)に全国で発生した水難は1,395件、水難に遭った人の数は1,625人に上っています。そのうち744人が亡くなったり行方不明となったりしてい



ます。子供(中学生以下)の死者・行方不明者の割合を場所別にみると、1位が「河川」で全体の58.1%、次いで「湖沼池」(19.4%)、「海」(16.1%)、「用水路」(6.5%)となっています。亡くなった方は溺れて亡くなる溺死ということになりますが、日本は世界の中でも群を抜いて溺死が多い国です。実際に、WHOの2017年の報告書によれば、2017年の1年間に8,163人が溺水で命を落としました。これは世界と比較しても、とても多い人数です。

そこで、本校では本日(月)の校内研修では、養護の杉本先生が企画した心肺蘇生法講習会を、全職員参加して行いました。中央消防署出水出張所の方々の指導の下、プールで実地訓練を行いました。実際にプールで子供が溺れた場面を想定し、救急連絡の在り方や、子供たちの誘導の仕方、心肺蘇生法訓練用のダミー人形を使用し、胸骨圧迫の正しいやり方や、AEDの使用方法など真剣に学ぶことができました。

実は、先ほどの溺水により亡くなった方の内訳ですが、浴槽関連で6091人、自然の水域内関連で835人、水泳プール内で3人、となっています。日本人は入浴の文化が諸外国より独自に醸成されていて、お風呂での事故が際立っています。

プールでの事故は少なくなったとは言え、まさかの時の備えとして、今後も安全指導、安全対策を油断なく行なっていきたいと思えます。

運動会全体練習③

今日の運動会全体練習は、たてわり班競技の練習と応援合戦の通し練習が行われました。体育委員長が「今日は全体練習の最終日です。各団の士気を高め合って運動会に向けて頑張りましょう!」と練習のめあてを伝え、練習が始まりました。今年から始まるたてわり班競技ですが、上級生と下級生がペアを組んで競技に参加します。そのため上級生は下級生にアドバイスをしたり、下級生は上級生にわからないことを尋ねたりしながら、仲を深めています。

運動会に向けて、多くの学校は、特別時間割などを組んで、練習の時間を確保しているようですが、本校は通常時間割を変更することなく、体育の時間にできる範囲でがんばっています。短い練習時間となりますが、子供たちは運動会への意識を高めながら取り組んでいます。練習後のめあての振り返りでは、体育委員長が「練習最終日だったけど、皆さん全力を引き出せていました!運動会でも全力を引き出していきましょう!」と述べていました。私も子供たちには、100点満点ではなく、今の自分のベストを尽くして欲しいと思いました。